

「島田市版ネウボラ」保健師の取り組み

天野 由美子

静岡県島田市役所

【要旨】「島田市版ネウボラ」は、すべての子育て世帯に担当保健師をつけ、妊娠期から子育て期までの父親も含めた家族全体の相談を受けることで、何かあれば担当保健師に自ら SOS を発する関係性を構築することを目的としている。

市における出生数は年々減少傾向にあるが、虐待担当部署への児童虐待件数は年々増加している。保健師の支援も予期せぬ妊娠や飛び込み出産などの緊急対応ケースやハイリスク家庭への支援が中心となっており、その家族が抱える問題も、子どもの発達のことや家族関係、夫婦関係のこと、経済的な問題、養育者の心身の問題など複雑化し、専門的な知識が必要とされるケースが増え保健師の対応に時間を要している。このため、リスク要因が少ない、あるいは表面化していないケースには目が行き届かない状況があり、問題が表面化した時には大きな問題となっていることが多い。また、保健師が訪問することで「虐待している家族だと思われる。」と訪問を拒まれたり、居留守を使う、電話に出ないなどの家庭もあり、支援者が集まったケース会議が支援方法の検討の場ではなく、どのような家族と会うかを検討する場となり、時間を浪費している状況である。その他にも、庁内の母子保健事業の縦割りも課題であり、支援が必要な家族を関係部署につなぎ、切れ目なく継続した支援が弱いことは共通の課題として認識していた。

これらのことから、平成 31 年 4 月からアドバイザーにネウボラの第 1 人者である大阪市立大学大学院 教授 横山美江先生と市内小児科医をお迎えし、フィンランドのネウボラのエッセンスを取り入れた島田市の現状に合った「島田市版ネウボラ」をスタートさせた。

母子保健事業の見直しに加え、庁内の関係課や関係機関との連携と課題分析のため庁内会議の開催や、家族カルテの導入など、大きく変更した点や今度の課題等について報告する。